



学校法人 緑ヶ岡学園
釧路市緑ヶ岡1丁目10番42号 www.midorigaoka.ac.jp

- 釧路短期大学 ● 釧路短期大学附属幼稚園
- 釧路短期大学附属図書館 ● 釧路短期大学生涯教育センター
- 武修館高等学校 ● 武修館中学校 ● 専門学校釧路ケアカレッジ



理事長よりご挨拶

学校法人緑ヶ岡学園
理事長 中 島 太 郎

緑ヶ岡学園は、現在、釧路短期大学、介護福祉士を養成するための専門学校・釧路ケアカレッジ、武修館高等学校、武修館中学校、短期大学附属幼稚園の5つの学校、幼稚園において、583名の学生・生徒と78名の園児が勉学等に励んでおります。

本学園は、昭和39年の創立以来、半世紀にわたる幾多の試練を乗り越えながら、「愛と奉仕」「人を愛し人に尽くす」の建学の精神のもと、釧根地域の

唯一の私学として、教育・研究等を通じての人間形成と即戦力として地域社会に貢献できる学生・生徒の育成を目指し、地域に密着した教育を実践してまいりました。

短期大学は生活科学科と幼児教育科の二つの学科がありますが、生活科学科の生活科学専攻では、家庭、地域、職業等生活全般を理解・改善するための幅広い知識、技能を習得し、地域社会の創造に関わることができる人材の

育成を、食物栄養専攻では、ライフステージに対応した健康な生活を創造できる職と栄養の知識、技能を有し、地域社会に貢献できる人材の育成を、また、幼児教育学科では、次世代を担う子供たちの心身の健全育成を図ることができる専門的な知識や技術の学びを通じた豊かな人間性と感性を持った保育者の養成を目指し、学生個々の習熟度、具体的な目標への到達度を把握しながら、学生の自主性、主体性を大切にした教育を進めております。

高等学校・中学校では、中高一貫コース、普通コース、スポーツコースにおいて文武両道を目指した学力の向上、部活動の充実のための各種方策を講じるとともに、校訓「愛と奉仕に生きる」の精神を諸行事ごとに浸透させることでボランティア精神の向上を図り、地域で必要とされる人材の育成を目指しております。また専門学校においては、

単なる技術者、有資格者の養成にとどまらず、医療保健、介護福祉施設等から即戦力として必要とされる人間的に質の高い社会人の育成に主眼をおいた授業の推進を、幼稚園においては、教育目標を「明るく元気に遊ぶ子ども」「素直で優しい子ども」「最後までやり抜く子ども」として、幼児の毎日の生活が楽しく充実したものになるような環境づくりと、全クラス2人担任体制でしっかり保育を進めております。

緑ヶ岡学園では、これからも各学校において学校長を中心に全教職員が一丸となって知恵を出し合いながら、更に地域や保護者の皆様に愛され信頼される学園を目指し、ご期待に応えることができますよう努めてまいり所存であります。皆さまにおかれましては、これからも緑ヶ岡学園に対する、なお一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



武修館中学校 高等学校校長よりご挨拶

武修館高等学校
武修館中学校
校長 馬 場 保 孝

◆就任あいさつ

4月1日付で武修館中学校、武修館高等学校の校長に就任いたしました馬場です。よろしくお願いいたします。

昭和52年に公立学校教員として採用され、教諭として初任の釧路北陽高校を含め3校23年（旭川東栄、大樹）、教頭として2校4年（滝川、虻田）、校長として5校11年（天売、新得、留辺蘂、室蘭東翔、石狩翔陽）の38年間の公立高校での教員生活を平成27年3月末で終え、4月より本校の副校長として勤務しております。これまでの経験を活かし、本校並びに学園の発展に全力を尽くしてまいりますので、今後ともなお一層の御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

◆武修館中学、武修館高校の今

本校は、昭和39年に釧路女子短期大学付属高等学校として女子生徒の後期中等教育を担う場として開校し、これまで校名変更を含め幾多の教育体制

の改善を行い、釧根地区唯一の私学、中高一貫校として地域の認知を得るに至りました。近年の中学校入学希望者の増や今年度の高校の定員を上回る154名の入学者が、その証であります。今後とも、校訓「愛と奉仕に生きる」実践者の育成を目指し、生徒を中心に据えた教育を展開するとともに、検証、改善に努めてまいります。

今、中学校では、高校一貫コースとの連続性を重視し、英・数・国の授業時数を増やすとともに土曜授業の1コマ90分制（高校一貫コースも）を実施しています。今後は、これらの方策の検証はもちろん学習指導要領の改訂や高大接続に向けた新テストへの対応等、中高6年間を見通した教育計画の再構築を図ってまいります。

高等学校では、これまでの3コース制（一貫、普通、体育）を継続し、不十分であった各コースの性格を明確にするとともに、教育課程の改定を行い、中学校への周知に力点を置いた取組を行っています。また、「普通コース」に多様な選択科目を設置するとともに

に、教科・科目の選択を容易にするための目安としての「系」（特進系、進学A系、進学B系）を設けました。これらは、生徒・保護者のニーズにこれまで以上に応えるための、私学の武修館だからできる生徒の夢の実現に向けた特化した教育であります。

生徒が「武修館で学んでよかった」、

保護者が「武修館で学ばせてよかった」、そして教職員が「武修館で働いてよかった」と思えるよう、自らの率先垂範を旨に教育活動を推進してまいります。また、教職員一丸となって「生徒を中心に据えた教育」を実践してまいります。



～オオバナノエンレイソウ～ 学園の花



緑ヶ岡学園の敷地内に毎年5月下旬に入ると花を咲かせる「オオバナノエンレイソウ」清楚でつましい花のイメージから緑ヶ岡学園の象徴としています。

学園の園章は、これをモチーフにデザインされています。

釧路短期大学

子供からお年寄りまで参加

オペレッタやトーンチャイム

釧路市霧フェスティバルの時期に合わせ、釧路短大の幼児教育学科音楽ゼミでは幼稚園の実習が6月にある中、準備から本番に向けて集中して取り組んでいます。

これまで、歌とお話で、「スイミー」オペレッタで、「ブレーメンと仲間たち」昨年は「大きなかぶ」を上演しました。

毎回、地域教育研究ゼミ、こども造形ゼミにも協力載いて、幼い子供からお年寄りまでたくさんの市民に参加してもらっています。

創立50周年の記念に、後援会からトーンチャイムを寄贈いただき、オペレッタの企画のほかに練習を重ね、レパートリーを増やしなが、様々な釧路のイベントをはじめ、保育園、幼稚園、老人施設などで聴いていただく機会を得ています。

発表する機会を持つことは、本番に向けての準備や練習、チームワークなど多くの力をそれぞれが自覚すること、協力することが必要であり、毎年それぞれの仲間同士で、苦労をしながらも頑張っています。



放送大学と単位互換協定

平成29年2月、釧路短期大学は放送大学と単位互換協定を結びました。この制度により、本学の学生が放送大学で開講する科目を履修し、取得した単位を本学の単位として認定することが可能となります。初年度となる本年は、教養系を中心に17科目32単位を互換対象科目に選定しました。新入生は後期から放送大学の科目からも選択することができます。

本学には社会人学生が毎年入学し、限られた時間で学業と育児・仕事など

を両立させていきます。このような多忙な学生にも、パソコンやスマートフォンなどによる時間や場所の制約を受けないインターネット授業との併用は、便利な受講スタイルと言えます。

釧路短期大学は、学位授与の方針に掲げる人材（財）を養成するため、連携校の多彩な科目とあわせ、各学科の専門教育をより広く深める学修となることを期待しています。



生活科学専攻

夕日サイダーで地域貢献－「地域活動」

生活科学科生活科学専攻では、必修科目「地域活動」を設け、学生自身による地域課題の発見→地域資源を利用した課題解決企画作成→学外の個人・団体との協働を通じた企画実行を進めています。平成28年度は、観光振興による地域の社会・経済の活性化に向けて、稀有な地域資源である釧路の夕日・夕焼けの利用をテーマとする活動を、2グループに分けて行いました。

うち1グループでは、“夕日ハイボールはあるが、お酒を飲まない人や子ども

たち向けの飲料がない”との課題を見出し、飲みやすく美味しい、夕日・夕焼けをイメージした「くしろ夕日サイダー」を考案しました。市内の飲食店で試験販売が始まり、「釧路夕焼けフォーラム」でもご紹介いただきました。課題発見から企画実行までのすべてを学生自身が行うことで、課題発見力・企画力・実行力等からなる社会人基礎力の基盤が身につき、早い時期に全員が就職先を決めることができたという副産物もありました。



研究室訪問

英語を通じて釧路の活性化を

釧路短期大学 生活科学科 講師 岩松 恵

昨年、本学に赴任し、今年で2年目となりました。釧路生まれの釧路育ち。釧路管内の中学校2校、高校5校で英語を担当。本学では「英語」の他、「国際理解」という科目も担当しています。今年からは2年生の「ビジネス英語」も指導しています。本学の学生は皆明るく素直で、進路目標が明確なので毎日楽しく授業を進めています。建学の理念は「愛と奉仕」です。どう社会と関わり貢献できる学生を育てるかということを赴任以来自分にも、学生にも問い続けてきました。その結果、英語に関心のあるゼミの学生と「幣舞橋を中心としたガイドの本の製作」や「ク

ルーズ船入港時のボランティア活動」に取り組むことにしました。また、前年度は夜間に本学で「シニア基礎英語講座」を16回実施し、14名が参加しました。今年度も5月から12回の講座を予定していますが、すでに16名の方々が参加し、英語を学んでいます。前述したガイドの本を7月下旬までに完成させたいと考えています。そして完成後は本学の学生だけでなくこのシニアの方々とも一緒に英語を使ってボランティア活動をする予定です。釧路の活性化に本学の学生だけでなく地域の方々とも英語を用いて積極的に関わっていきたいと思っています。



食物栄養専攻

糖尿病いきいきレシピコンテスト最優秀賞

臨床栄養学ゼミは、栄養の過剰摂取・不足により生じる疾病に対し食事療法を学びます。

特に生活習慣病の代表的な高血圧・糖尿病・脂質異常症などの献立を作成します。

栄養バランスの取れた献立、美味しく、満腹感があり、喜んでいただける食事を作る使命感が必要です。そのためにはコンテストに挑戦し、自分たちの作成した献立が、どの様に評価されるのか試してみることで、志気が上

がり、献立を作成する作業が好きになります。

去年は「糖尿病いきいきレシピコンテスト」に挑戦、地産地消、地域の特産品を使い、魚介類や野菜をたっぷり使って「道東からの贈り物」を作成しました。その結果最優秀賞を受賞し短大の学長表彰もいただきました。学生の可能性を引き出して、社会に出てから、きめ細かく対応できる柔軟性と社会に貢献する熱意を身につけてほしいと考えています。



研究室訪問

スポーツ栄養学研究室

釧路短期大学 生活科学科 教授 山崎 美枝

私の研究テーマは「水上スポーツ選手の競技力向上の栄養摂取」です。特に、フィギュアスケート、アイスホッケー競技を中心に研究しています。2014年にはソチオリンピックにおいて日本選手団の栄養サポートを、2017年の冬季アジア大会においては様々な国や地域の選手が安心して食事がとれるよう、アスリートホテルの食環境整備等を行いました。

スポーツ栄養に興味・関心を示す若者が全国的に増えており、私のゼミナール（以下ゼミ）にもスポーツ栄養を学びたい学生が集まってきています。ゼミではスポーツ栄養学の基礎もレクチャーしますが、スポーツ現場での体験を重視しています。毎年、全国

一を目指す武修館高校アイスホッケー部員の身体計測と栄養指導を通し、競技種目による栄養摂取の特徴を学んでいます。このほか昨年度は地元のパン屋「麦」様と連携し、アスリートや受験生に適した「福（ぶく）パン」を考案し商品化が実現しました。試合前や勉強前の栄養摂取の基本である「高炭水化物・低脂肪」に調整し、パン生地には炭水化物が素早くエネルギー化されるようビタミンB₁を多く含む全粒粉を使用、さらに小分けして食べられるようなちぎりパンスタイルにするなどゼミ学生たちのアイデアが詰まったパンです。今後もゼミでは、アスリートの食環境が整うような取り組みを継続する予定です。



幼児教育学科

今年も開催「KJCランド～こどものあそびの日」

3年目の今回は、定番の幼児教育学科2年生の劇仕立ての参加型プログラム（3階奥）、1年生の工作ブース（2階）もさることながら、オリジナルキャラクター「けんじろうくん」が階段でお出迎え。廊下や階段の装飾にも「ぐりとぐら」、「バムとケロ」、「白雪姫」の絵本の世界観を表現しようと学生たちが頑張りました。木々や虫をかくぐつての迷路「けんじろうのぼうけん～Welcome to ジャングル」も大人気。

舞台では、①「コロくんのお道具箱」（使いっぱなしで片付けなかった犬のコロくんが困ってる。どうする？）、②「ねずみちゃんの音楽会」（いろいろな物を入れて音を出そう。でも、ティッシュ入れて大丈夫？）、③「短大レンジャー」（敵は意外に強い。みんなもレンジャーを助けて！）、④「しりとりのお姫様」（姫の注文は、しりとり順で並べて最後にプリンで終わる食事。家来はどうする？）、⑤「ふしぎなお買物」（買物にきたんだけど、あれ？全部白いぞ！レインボーちゃん助けて！）、⑥「早寝早起き朝御飯」（たろう君、元気がないのはなぜ？）で、工作ブースでは、ストロー、紙コップなどで、遊べるおもちゃを作りました。

また、木のおもちゃで釧路市役所産業推進室、絵本・児童書では、くしろブックシェアリング、軽食では、大きな木・ひかり・こめしんの皆様からご協力いただき、来場者は380名余でした。感謝致します。次回は2018年1月21日の予定です。



研究室訪問

昔話が今に伝えること ～日本昔話ゼミ～

釧路短期大学 幼児教育学科 教授 岩野 布美子

学生の“生活体験・学童期の遊び、スマホへの愛着”に、年齢差を感じる私ですが、「日本昔話ゼミ」では、共に、登場人物の個性や時代の背景について語り合います。稀有な能力の男、奇怪な山姥、悲しい仙人、生老病死に悩む男女、強欲者、人生の落伍者、勤勉で仏のような人物、未来を拓く清々しい若者、マイペースな怠け者、そこつ者、嘘八百の男、夢見る人、天真爛漫な老若男女・・・彼らは今も身近な存在であり、彼らの抱える弱さや憎しみの背景は今にも通じると考えます。古来、日本各地に類似した昔話があったように、中国、欧州にも日本と似た昔話が存在しました。著名な小澤俊夫氏が、昔話の展開には明確な約束事、「文法」があると伝えます。グリム童話、イソッ

プ童話もしかり。古来の人々は未来の子どもに伝えたい“生きる知恵”を、「昔話文法」に沿って、真意を訴えます。時に、芥川龍之介や太宰治らは、日本や中国の昔話をヒントに、新たな近代文学へと繋げました。「百人一首」の時間では、木札に書かれた流麗な書体を苦勞して読み、解釈や感想を互いに披露。（最後に正解を紹介）。学生からは、恋愛の歌（相聞歌）が多かったという気付き、正解に近い考察には、大きな拍手で仲間を称賛。“恋愛”という普遍的関心事が、平安時代から今へと同じ感性で繋がりました。近年は悲しい事件も多く、そんな時こそ、昔話の伝える生活と知恵、包容力、たくましさ、親子愛や夫婦愛に触れてほしいものです。



武修館高等学校

◆ 北方領土返還に向けて

武修館高等学校 2年一貫コース 古屋 真有

今年の1月に札幌市で開催された「北方領土を考える」高校生弁論大会に出場させていただき、北海道知事賞を受賞することが出来ました。そして、副賞として内閣総理大臣に表敬訪問をさせていただくことが出来ました。幼い頃から、「北方領土」と言う言葉を聞く機会はたくさんありましたが、余り深くまで考えたことはありませんでした。

しかし、今回の弁論大会に出場するにあたって、自分でも「北方領土」に関する文献などを調べ返還について考

北方領土弁論大会総理官邸表敬訪問



平成29年3月23日

希望
為古屋真有様
平成廿九年三月廿三日
内閣総理大臣 安倍晋三

◆ 第57回交通安全国民運動中央大会 交通安全優良校

武修館高等学校はこの度、第57回交通安全国民運動中央大会において「交通安全優良校」の表彰を受けました。交通安全に対する取り組みとしては、1990年より交通安全集会を実施しております。釧路警察署員の方からの講話や、交通安全をテーマにした標語・作文などを発表することにより生徒一人一人が交通安全に対する意識を高めてきました。その他に各クラスで選ばれた交通安全推進委員と生徒会を中心とした春の交通安全出陣式の参加や街頭啓発、自転車セーフティラリーなどの活動を行っています。

これまで生徒、保護者、卒業生、教職員、地域の皆様が一体となって長年にわたり取り組んできました。その事が評価されたことは大変うれしく思うのと同時に、これから先もますます気持ちを引き締めていかなければいけないと感じております。自らの命を守る



◆ 繋ぐバドミントンで男女アベック優勝！

武修館高等学校 バドミントン部

こんにちは、武修館高等学校バドミントン部顧問の山田滉と申します。皆様の御協力のおかげで、国体支部予選では団体戦を男女アベック優勝という非常に良い形の結果をおさめることができました。この武修館高等学校バドミントン部の顧問となってもまだ1か月程しか経っておらず、まだまだ顧問として未熟であり、不安がつきまとう中、今回の優勝を目の前で見ることができ、少し安心できました。男女とも決勝まで楽な試合はなかったと思います。接戦が決勝の最後の試合まで続き、生徒は非常に緊迫した中で試合をし、肉体的にも精神的にも相当の負荷がかかったと思います。その中で今回、男女共に優勝を飾ることができ、生徒にも少し自信がついたと思います。

団体戦で最も重要なことは「繋ぐ」ということだと私は今回の大会で思いました。試合中のラリーにおいても「繋ぐ」ということは大事なのですが、団体戦では次のチームメートに試合を「繋ぐ」ということが非常に大事に思

われます。団体戦ではチームメートのプレー1つで流れが変わることが多々あります。例えば、トップダブルスが負けても、粘り強いプレーをしていて、それを次に試合する人が見てた時、その勢いは伝染することがあると今回の大会を見て思いました。バドミントンは個人競技ですが、チームメート全員で勝つという団体競技でもあるのだと感じました。

しかし、個人戦では悔しい結果が多かったです。また生活面でも指導される場面が多く、今後の課題を生徒自身は理解しているで、そこを修正できるように私たち指導者も頑張っていきたいと思います。

次の大会は高体連です。3年生は最後の大会となります。最後までチーム全員で戦えるように、そして全道大会、さらにはインターハイに行けるように今後もチーム一丸となって練習していきたいと思います。これからも応援のほど、よろしくお願いします。



◆ 普通コースの充実



本校の普通コースは、希望進路に即した3系（特別進学系・進学A系・進学B系）を配置し、幅広い進路に柔軟に対応できるコースです。

1年次は必修科目を中心に、進学に向けた学習を行い、科目に応じて習熟度別授業も実施しています。

2年次からは進学A系（大学進学、看護・医療系学校・公務員試験対応）、進学B系（短大・専修・就職対応）を選択できます。さらに、国公立大学や難関私立大学を志望する生徒のため、特別進学系（平日7時間授業、他の2系については6時間授業）も配置しています。

また、部活動への加入率も高く、サッカー部、羽球部、女子バレー部については強化指定をして特に力を入れています。資格取得・検定取得も推奨しており、本校の卒業生は高校生活での経験や取得した資格を生かしてさまざまな分野で活躍しています。

進路を決めることはとても大切なことであり、迷い、悩んで当然です。また、大学や短大、専修学校への進学や就職など、進路は人それぞれです。高校生活の中で自分の道をじっくりと探し、実現していきたい人に、本校の普通コースをお勧めします。

武修館中学校

◆ 原光平くん 英検準1級取得！

今春武修館中学校を卒業し、武修館高校へ入学した原くんは、中学3年であった昨年の、平成28年11月に実用英語検定の準1級を取得しました。準1級は英語専攻の大学生並みの能力が求められ高い水準となっているだけに、大変な快挙です。特に二次試験の面接では、時事問題が英語で質問されるので英語だけでなく総合的な知識や応用力、表現力を求められます。

受検に当たっては英語科教員が総動員になって面接練習をしました。繰り返し練習することで着実に力をつけていきました。また、原くんは自宅でインターネットを介して外国の人と交流することで会話のスキルを磨いたそうです。英語の魅力を「覚えた分だけ外国の知り合いと話す内容が広がり、やる度に力がついたと実感できる」点だと話しています。彼にとって英語はもはや学ぶべきものではなく、自分の楽しみを広げてくれるものとなっている

のかもしれません。

グローバル化が進む現代社会で本校生徒が実用的な力を身に付けてくれることは大変喜ばしいことです。将来の有望な人材としてこれからも活躍してくれることを期待します。



◆ 各種コンクール等で成果！

本校では、毎年各種コンクールへの応募を積極的に行っております。昨年度は、英語暗唱大会で現高校1年生の多田ひよりさんが地区大会で優勝、全道大会へ出場しました。本校では優勝は初、全道大会出場は3年ぶりの快挙です。その他「少年の主張」弁論大会では優秀賞、いじめ・ネットトラブル根絶！メッセージコンクールでは標語

部門で最優秀賞、中学生作文コンクールでは道東地区特別賞などをいただくことができました。

昨今の教育現場は大学入試の刷新をはじめ、変革の時を迎えています。その中で、話したり書いたりするスキルを身に付け自分の考えを表現することはその核となる項目の一つとして重要視されています。各種コンクールに向

け作品を仕上げ表現することはこの一助となることでしょう。今後も一生懸命に表現し、その結果としてたくさん

の賞をいただけるよう頑張ってくれることを期待します。



◆ 武修館の制服が新しくなりました

平成29年度より、武修館中学校・武修館高等学校の制服が新しい統一デザインになりました。従来までは、中学校と高校が別な制服でしたが、今年からは、同じ

デザインになり、一貫コースでは、高校入学時の買い替えも不要になりました。唯一、ネクタイとリボンが、中高でそれぞれ違う色・デザインになります。



中 学 校



高等学校

新任教員紹介

◆ 黎明期



武修館高等学校 扇 谷 翔 太

今年度から武修館高等学校の数学科に就任いたしました、扇谷翔太と申します。

今年から社会人1年目ということで右も左もわからない、という状態で、周りの先生方に支えていただいて日々を過ごしています。着任して1ヶ月が経ちましたが、武修館高等学校の生徒たちは礼儀が正しいという印象を受けました。私も教師として生徒の見本となれるように一層、礼儀を大切にしていこうと思うことができました。私自身も普段の授業や顧問である、バドミントン部の指導を通して生徒から学ぶことや新しい発見が多くあります。そんな毎日を過ごしていく中で、私の教師人生の黎明期として精一杯経験し、若い力で生徒と共に切磋琢磨していく次第ですのでよろしくお願い申し上げます。

◆ 意志あるところに道は開ける

武修館中学校 阿 部 泰 久



みなさん こんにちは、今年度より武修館中学校で社会科を担当することになりました、阿部泰久と申します。

私の教員になりたいという意志が最も強まったのは、大学4年次での教育実習でした。そこでは自分が生徒だったときに見ることがなかった授業以外の教員の仕事や、授業準備の大変さ、各分掌の仕事、生徒に対して教員が時には厳しく指導をすることの本当の意味などを実際に経験しました。

毎日があっという間に過ぎていく中で、実習最終日の帰りのHRになり、生徒にこれだけは伝えたいと思った言葉がありました。「意志あるところに道は開ける」というリンカーンの言葉です。どんな困難の中でも常に意志を持ち、前を向くことが大切だと私は思います。

そこで私はこの機会にもう一度この言葉を思い起こしました。社会人になり仕事をする上で、毎日が新しい経験の連続です。くじけそうなときや誘惑に負けそうな時に思い出すのです。自分がこの言葉を意識して言うことで生徒に対してその模範とならなければなりません。良き社会人として生徒の模範になれるよう常に努力に励み、生徒とともに大きく成長していこうと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

釧路短期大学附属幼稚園

◆ 新制度移行への道

釧路短期大学ふぞく幼稚園 園長 柿 原 勝

27年度から始まった『子ども・子育て支援新制度』にのっとり、29年4月から釧路短期大学ふぞく幼稚園も『施設型給付の幼稚園』という新制度の幼稚園への移行を選択させて頂きました。

この制度はあまりにも複雑過ぎて、一般の方に理解を頂くのは本当に難しいのですが、敢えて簡潔に要約させて頂くと、①都市部の待機児の課題と少子化（人口減少）が急激に進んでいる自治体の課題に対応しています。②職員の処遇改善問題の解決に対応しています。③消費税を財源として、国・道・釧路市が未来を担う子ども達の為の環境づくりに対応していくという3点が挙げられます。

釧路市では年々5歳児以下の人口が統計上も下降線状態にありますから、従来の私学助成のままで、残念ながら山積する課題に対応していくのはかなり困難です。

それでも、平成27・28年と2年間新制度への移行を躊躇ったのは、『利用者負担額（＝保育料のような物です）の金額』が従来の保育料よりもかなり増えることでした。

札幌や函館や旭川といった都市部は勿論、帯広・北見・苫小牧といった都市もこの『利用者負担額』の金額設定を国基準の額よりも大きく引き下げていました。

この金額の設定は、各市町村に権限が委ねられているので、釧路市が金額設定を国基準のままで進めることは、法的に問題はありませんでした。

ただし、国基準のままで、年間で8万円近く保育料が増額する世帯が続出してしまうのです。（この理由は、

釧路市の私立幼稚園が全国的にも大変低い保育料金を設定しているからです）

28年度、釧路市こども保健部と何度も交渉をした結果、29年4月より他都市並に『利用者負担額を下げる』というコメントを蝦名市長から頂くことが出来たので、今後の未来を見据えて当園も移行を決断したのです。

移行すると、事務処理が大変煩雑になり管理職員の負担は増えますが、従来と比較するとかなりの増収が見込めます。また、現場において大切な教職員の給料を上げることが義務づけられているので、未来的には有意義な投資だと位置付けています。

勿論、新制度に移行したからと言って解決するわけでは全くありません。一番大切なのは、子ども達に、保護者に選ばれる保育内容であることは変わらないのです。

その点において、当園は平成20年より細かく保育内容の見直しを行い、アンケートを毎年（現在は毎学期）実施し、改善できるところはすぐに対応をする。また、なぜそのような方針や考え方なのかを解説させて頂くという地道な作業を続けてきました。

この姿勢を継続して、今後もより良い保育をしていきたいと考えています。そして、新制度移行にはさらなる続きがあり、平成32年3月までに『認定こども園』への移行も検討しています。（この新制度は5年ごとに大きく見直しをすることになっていて、最初の5年間は色々な特別な経過措置があります。その期間を逃さないで対応していきたいと考えているのです）



◆ 25名が巣立っていきました！！

平成29年3月11日【土】、釧路短期大学ふぞく幼稚園の遊戯室で第52回卒園式が行われました。

在園児・保護者・来賓が見守る中、25名の年長さんが巣立っていきました。この25名のスタートを知る我々教職員にとって、子ども達の凛々しい姿に心から感動しました。

ステージに上がり、『修了証書』を授与する子ども達の姿、「大きくなったら〇〇になりたいです」と発表する姿は、本当に素晴らしかったです。

当園は、『卒園後も見守る幼稚園』という方針ですから、「卒園したらから終わり」と言った考えはしていません。

入学前の引継ぎには細かい資料を作成して小学校に渡します。また近隣の小学校の入学式にも参加させて頂き、卒園児の様子を見させて頂いています。

そんな卒園児が入学式後、ピカピカのランドセル姿をわざわざ幼稚園に見せに来てくれることに、我々職員も本当に力をもらいます。

幼児期という大切な時期に、子ども達と関わらせてもらっていることへの感謝と、この仕事への誇りを再認識させられるのが当園の卒園式だと改めて思います。



◆ 園外保育（別保森林公園）

～カエルの卵採り～

本園は『散歩・園外保育』の保育を体験重視というねらいから積極的にを行っています。

散歩では交通ルールを確認しながら近隣の公園へ遊びに行きます。初めは近い公園にのみ出掛け、年長になると歩ける距離が長くなるので少しずつ遠い場所へも行きます。

園外保育は、園バスを利用して市内各所の公園や遊学館等の施設へ出掛けます。その園外保育で、今年度の年長組は別保森林公園にカエルの卵を採りに行きました。図鑑等で見たことは

あっても、実物を見たり自分の手で触ったりといった経験は少ないかと思っています。

出発前の子ども達のワクワクした表情や、戻って来た時の「見てー！」「いっぱい採れたよー！」という生き生きとした笑顔はとても素敵でした。

公園で採ってきた卵は、幼稚園で飼育し、卵から成長していく様子を実際に観察します。実際に「見る・触る・感じる」ということが子ども達にとってとても貴重な経験となるはずです。



専門学校釧路ケアカレッジ

◆ 専門学校の「キセキ」を振り返る

はじめに…

Q…専門学校とは…？
A…職業教育に特化し、その業種のスペシャリストを養成するための機関で、その時代、時代を反映したもの。

では、それを踏まえて3学科あった専門学校の軌跡をおってみましょう。

専門学校の軌跡の始まりは、平成元年にさかのぼる。

消費税3%が施行され、任天堂の「GAME BOY」が発売されたのが、この頃。

高度情報社会の時代を迎え、その技術者に対する社会の需要は拡大、より優秀な情報処理技術者の育成が求められ、『釧路情報処理専門学校』が誕生。情報処理専科40名／情報処理科40名が、専門学校のスタートになります。

パソコンやスマートフォン、タブレット端末の普及、情報処理技術者に対する高度化／専門化が進み、時代のニーズが変化。平成24年3月に、その役割を終え、廃止となった。その間、577名もの技術者を輩出、釧路地域に対し貢献を果たした。



翌年の平成2年、地域産業の活性化と少子高齢化社会をにらみ誕生したのが『日栄総合技術専門学校』。自動車整備科40名／介護福祉科40名で開校。音別町（現釧路市音別）や大栄産業等の協力もあり、音別町にキャンパスを構えてのスタートとなった。（平成17年、音別町より釧路に移転、情報科と統合される）

自動車整備科は平成7年に休止、その後平成23年に廃止となった。短い期間ではあったが、35名のメカニックを育成し、地域産業、自動車産業に対し大きく貢献したのではないかな。



介護福祉科は、少子高齢化社会に対する国の政策、奨学金制度や雇用対策の効果から一時期は学生数も多かったのですが、ここ数年学生の低下から平成30年3月末日をもって閉校することになった。少子高齢化問題は、現在、日本が抱えている大きな社会問題の1つ。今後も深刻化するこの問題、支えての人材育成は、国、地元釧路の大きな課題でもある。しかし、現実的には若い世代からは敬遠され、慢性的人材不足をまねいている。学生数の低下と言う学校運営の面から閉校となるのは、ある意味仕方がない問題ではあるが、今後、地元釧路の福祉政策や福祉施設の運営に大きな打撃をあたえるのは間違いないのではないかな。

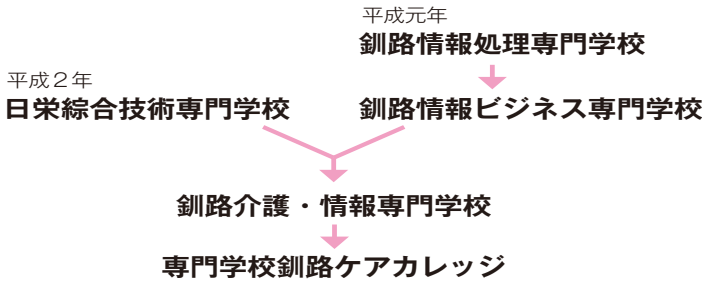
介護福祉科は、平成29年末時点で、555名の卒業生を輩出。釧路地区の福祉施設（高齢者施設／障がい者施設等）で活躍している。



時代の変化に合わせ、色々とかたちを変えることができる『専門学校』。何か別のかたちは考えられなかったのか？ 別なかたちで少子高齢化対策や障がい者施策の力になれなかったのか…。残念でならない。

平成29年末時点で、3学科合計で、1223名の卒業生を輩出している。

様々な理由で方向転換をした者、学ぶことを断念した学生も多い。その学生を含めると2000名近くの学生との出逢いが、ここにあった。数ある専門学校の中から、専門学校釧路ケアカレッジ（現専門学校名）を選び、入学してくれ出逢えたのは、まさに奇跡の出逢だったのかもしれない。その全ての学生たちとの出逢いに感謝し、今いる学生たちをしっかりと育て、最後の日を迎えよう。そして、自分がかかわった平成16年以降に出逢った学生たちには、あの頃の思いを忘れることなく、変化を恐れず現場を変えて欲しいと期待しています。



釧路短期大学附属図書館

◆ 図書館情報誌『エスキース』

1988（昭和63）年、本の紹介を主とした『読書案内』の後継誌として『エスキース』は誕生しました。第1号編集後記に「個人がもち得た知識は、多種多様であろうからそれを素直に御提供いただこう」とあるとおり、このリニューアルには従来の路線を踏襲しつつも、創作小説や詩、エッセイなど、学生の興味・関心事をある程度自由度をもって発信できる「情報誌」として刷新させるネライがありました。

現在の誌面のおよそ半分がこれらの原稿にあてられ、最新の26号では写

真と詩のコラボ作品投稿を受け、初のカラー誌面導入となりました。また、編集を担当する学生図書委員会「ライブラリアン」の努力もあり、表紙もカラー、誌面もより視認性の高い活字にあらため、目次もカテゴリー別表記が採用されました。

「ライブラリアン」の学生が原稿募集のポスター作成から、自ら執筆を担当し編集作業までこなす。いまでは学生参加型の情報発信ツールとして浸透・定着しつつあります。



◆ ライティング支援講座「自分史講座」

シニア世代で静かなブームを呼んでいる自分史。自身の生い立ちを整理するため、あるいは家族へ自身の生きた証を残すため、執筆の理由はさまざまです。

附属図書館では、2014（平成26）年度のライティング支援コーナー開設をきっかけに、「ライティング支援講座」を立ち上げました。本講座は、利用者が「読んだこと」「書いたこと」を地域に発信するための支援を目的としており、その一環としてライティング支援コーナーを活用した「自分史講座」を開催しています。

講師は長らく自治体発行の出版物を手掛けてきた佐藤宥紹館長です。本講座の前段では、地域や社会での出来事を基に自身の記憶を掘り起こし、時系列にまとめる「自分史年表」の作成に取り組めます。元記者をゲスト講師に迎えた「原稿の書き方講座」もご好評をいただき、通年8回の本講座は現在3年目に突入しました。

地域と資料をつなぐ図書館から、情報の創造・発信を支える図書館として一歩踏み込んだ活動に着手しています。市民が熱く学ぶ姿を学生に示す講座となっています。



釧路短期大学生涯教育センター

◆ 公開講座で〈知〉の形成～道東文化塾 2017～

毎年度5月第三土曜日から開講している道東文化塾、平成14年の開始から、本年度で第16年次目を迎えます。学内外の有識者をお招きし、「道東地方の文化的意義を考え」「最新の話題を楽しく提供」しながら、特に「地域で生涯学習指導者として活躍して下さる方を掘り起こす」を、目指しています。

＜道東文化塾 2017＞の本年度は、学内での講義が6講座。

5月「地域の魅力、ここがオススメ」(FMくしろパーソナリティの鈴木直哉さん)をはじめ、6月「釧路鳥取りん獅子舞」、7月「都市の中の自然―その学び方―」、8月「松浦武四郎と伊勢国の教養」、9月「アイヌ民族学―地域で学ぶ意義―」、10月「現代中国文理解の序章」を予定していま

す。

大型バスをチャーターし、現地で歴史資料を読むツアー＝「エクステンションツアー in 異国船来泊地（厚岸郡）」も織り込んでいます。

道東文化塾は、地域社会が行う生涯学習事業を支援すると同時に、短期高等教育機関ならではの自主的事業を展開し、地域に貢献することに取り組んでいます。



◆ 前田正名理解の拠点に

このほど附属図書館蔵書に、ゆまに書房発行『明治前期地方産業報告書』(全15巻)、日本経済評論社発行『明治中期産業運動資料』(全43冊のうち41冊揃い)が加わりました。

附属図書館では、平成2年度から5カ年間で各種文献を集中的に収集し、地域の基幹産業資料で構成した地域資料コーナーを整備しました。

他方で旧釧路市と旧阿寒町が合併後、十年余が経過しました。

阿寒湖畔の自然を後世に受け継ぐ事業をすすめる前田一歩園財団の思想基盤をたどる点は、重要なことです。さらに一歩園創始者の前田正名翁がすす

めた「下からの地域振興」は、今なお深い関心が寄せられています。

「札幌に行かずとも、前田翁の全国行脚＝あんぎゃ 諸地方を巡り歩く」に接することができます。そうした読書環境づくりと、読書環境への接触はいかがでしょうか。

前田正名翁の深い思い入れを、居ながらにして読み解いてみて下さい。釧路短期大学附属図書館は、地域にも図書館を開放する事業を続けています。

今後、前田正名翁の業績に学ぶ公開講座の実施を継続的に企画する予定です。



緑ヶ岡学園事務局

◆ 私と釧路市動物園

学園事務局 次長 阿部 友行

本年4月1日付で緑ヶ岡学園事務局次長の職を仰せつかりました阿部でございます。

私は、本年3月まで釧路市動物園の園長を務めさせていただきました。

振り返りますと動物園長時代は、これといった実績を残せないままの4年間でしたが、婦人団体を中心とした市民皆様のお陰で、アミメキリンのスカイとコハネを導入できたと同時に、動物園を大変盛り上げていただきました。

また、ホッキョクグマのミルク、アムールトラのココアなどの動物人気に支えられ何とか4年間動物園の運営ができたとも考えております。

ミルクやココア、チョコなど特別な動物は、挨拶すると返事を返してくれました。(単に声もしくは音に反応しただけかも知れませんが、本人は返事と理解しています。)

そんな動物に囲まれた在職中は、他では味わえない様々貴重な経験をさせていただき感謝しており、今後も動物

園のお手伝いができればと考えております。

動物園には、楽しく過ごしながら「命の大切さ」や「生きることの美しさ」を感じ取ってもらえるレクリエーションの場、希少動物を保護する種の保存、動物の生態を知るための調査研究、教育、特に動物の生息状況を通しての環境教育の4つの役割があることが広く知られております。

縁あって緑ヶ岡学園にお世話になりますので、系列の保育園をはじめ幼稚園から短大までの児童、生徒、学生の皆さんに是非、動物とのふれあいや、飼育体験等を通して動物のことを知り、動物を通して命や生きることを学んでいただきたいと思います。

その際、お手伝いできることがあれば協力したいと考えておりますので、お気軽にお声をかけて下さい。

最後になりましたが、学園の仕事に一日も早く慣れ、戦力になりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い致します。



編集後記

遅い春と初夏のおとずれが一日交代で来ているようです。緑ヶ岡の校舎周辺では、オオバナノエンレイソウが一気に開花(1頁写真)し、日差しの暖かさが少しずつ感じられるようになりました。

園児、生徒、学生たちの学びの一端を、紙面を通してお伝えする『緑ヶ岡学園報』も第5号の発行となりました。

1964(昭39)年に学園を設立して今年で53年になりました。人口減少社会にあって私学である緑ヶ岡学園の未来は、教職員の努力はもちろん、保護者の方々のご協力や地域の皆さまのご理解・ご支持があって、築かれていくものと思っています。

緑ヶ岡学園は、幼児からシニアまで各世代が学び集う場として地域の人材育成に貢献することをめざし、教職員一同、心を込めて教育に取り組んでまいります。

編集委員

- 斎藤 修 (事務局)
- 田澤 央 (短大)
- 種市 裕友 (高校)
- 安原 晃司 (高校)
- 大場 智司 (中学)
- 下地 秀人 (専門学校)
- 山口 貴広 (幼稚園)
- 渡辺 泰代 (図書館)